

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「クラブと地区の
変革をめざそう」

高田ロータリー今年の
スローガン

「しなやかな変化で
奉仕を高めましょう」



ロータリー：
変化をもたらす

2017～2018年度

国際ロータリー会長 イアンH.S.ライズリー
2560地区ガバナー 新保 清久
高田ロータリー会長 橋詰 敏一
幹事 田中 正人

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
箕輪 賢一 堀井 靖功 渡邊 隆 山田 守
小池 猛紀

第34回例会 ■ 3月23日(金)

No.34

会長挨拶 ● 橋詰 敏一



今日は上越市内小学校の卒業式ですが、冷たい雨で少々気の毒です。子供達の成長を実感できる日であり、これからも元気に健やかに育ててほしいと願うのは、親だけでなく地域全体であります。

卒業という事で、先週私事、長女の引越しをしますと申し上げましたが、無事に転居できました。上越から京都、そして東京へと約12時間運転し、930kmを走りました。京都へは日曜の早朝まだ明けぬ間に出ましたが、北陸自動車道は敦賀あたりまで道はガラガラで、アイサイトの付いたオートドライブではほぼアクセル、ブレーキを踏まずに3時間快適に走れました。自動運転技術がより進化したら、もっと楽になることを実感したところです。

しかし、先日、自動運転の路上走行実験を行っていたトヨタランナーの「ウーバー」が人身事故を起こしたと報じられ、自動運転開発にブレーキがかかった状態です。スバルのアイサイトも雪の日はもちろん、西陽を受けても機能停止する状況

ですので、人間にとって替われるまでには、まだまだの感があります。

人工知能の未来と問題提起を行った「2001年宇宙の旅」をご存知でしょうか。1968年4月、今から50年（半世紀）も前に封切られた、SF映画不朽の名作です。スタンリー・キューブリック監督によるその映像は、現在をもっても素晴らしいとの評判です。木星探査に向う宇宙船を操るのが人工知能 HAL9000 でした。当時、私は、2001年になればこんな技術が世の中に展開されるのかと、信じたものです。しかし、現在2018年は、まだまだ途上です。木星まで人間を送り、戻ってこられるには、もう50年はかかるような気がします。

映画で、人工知能 HAL9000 は、正しいと考えて宇宙船のクルーの生命維持装置を「切」りました。ある密命をプログラムされていたからです。

いつの世であっても、最後は人間の問題が問われます。

出席報告

出席率 96.55%

メイクアップ

大谷光夫君・羽深耕時君・加藤公一君・内山 徹君・齋藤俊幸君（3/17 新入会員セミナー）
水上喜芳君・橋詰敏一君（3/22 地区二役会議）

セレモニー

2018-19 年川瀬年度委嘱状
地区諮問委員 東山昕也君

委員会報告

出席・ニコニコ BOX 委員会

高橋孫左衛門君——この度義理の息子が上越勤務になりました。皆様には何かとお世話になります。ありがとうございます。因みに、勤務先は BSN です。

夏井陽三君——4月1日付で新潟日報社上越支店から新潟市の本社メディアシップに異動となりました。高田ロータリークラブの皆さまにはいろいろとお世話になりました。皆さまのますますのご健勝、ご活躍をお祈りしています。

会員インフォメーション



夏井陽三君——退会のご挨拶

幹事報告

配布物：週報No.33

回 覧：米山梅吉記念館 館報・賛助会ご入会のお願い

4月例会プログラム

回	日	講演者：演題	会場
36	4月6日	卓話 地区寄付資金ポリオプラス委員 野崎 喜一郎君 演題 未定	デュオ・セレッソ
37	4月13日	観桜例会 <夜例会>	アートホテル上越
38	4月20日	卓話 上越教育大学 副学長 小埜 裕二様 演題 未定	デュオ・セレッソ
39	4月27日	卓話 ANA 新潟支店 支店長 演題 未定	デュオ・セレッソ

会員卓話

獣医師による社会貢献活動の一例



栗島野ネコ不妊手術事業 栗島はオオミズナギドリの繁殖地として、1972年、国の天然記念物に指定されている。長岡技科大、名古屋大が2012年に行なった生態調査により、オオミズナギドリのヒナの死骸が一晩で30羽以上確認された。原因は住民が飼っていたネコ約10頭が野生化し、繁殖を繰り返した結果2017年7月現在68頭に増加し、現在はさらに増えたためと考えられる。

新潟県獣医師会は長岡技科大らの呼びかけに応じ、野ネコの不妊手術を実施する事とした。島に

西脇 薫 君

動物病院は無く、診療施設も無いため手術器具、機械、薬品等は全て持込み、費用も獣医師会で予算化して行なう事とした。2015年から事業を始め、2017年7月現在で25頭の手術を実施した。併せて性格の穏やかな個体は島外に出し、譲渡するようにしている。獣医師が島に渡り、手術を行うのは年に2～3回が限度で、効果は限定的ではあるが、継続することにより、オオミズナギドリの生態を維持するための一助になるのではないかと考えている。